

平成25年度大阪市立図書館の目標について [振り返り]

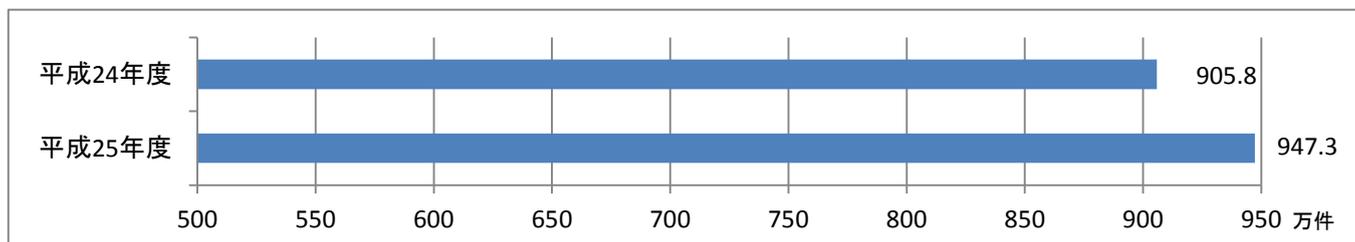
基本目標：「いつでも、どこでも、だれもが課題解決に必要な情報にアクセス可能な“知識創造型図書館”」を基盤とし、さらなる発展と再構築をめざす。

地域の情報活用基盤として調査相談機能の高度化などにより市民の利用を促進し、誰もがいつでも情報や知識を活用して創造性・生産性を高めることができるように支援する。また、子どもの読書活動の相談・支援センターとして、学校や地域と連携して子どもの心と創造力を育む読書活動を市民との協働により効果的に推進する。

【重点目標】

成果目標

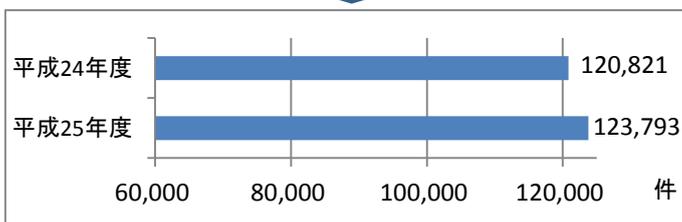
図書館への来館者数と図書館ホームページ(トップページ)アクセス件数の合計数を前年度より増加させる



業績目標

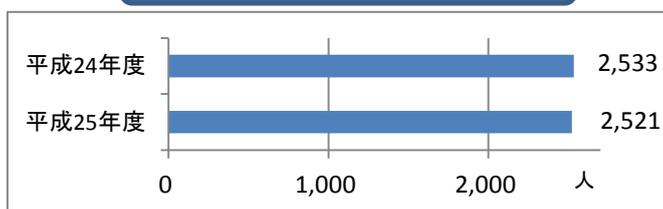
商用データベースについて、広報や活用講座・データベース検定の開催を通じて周知を図り、総アクセス件数12万件をめざす

- ・幼稚園や保育所、高齢者福祉施設で活動する読書支援活動ボランティアを対象に、ステップアップ講座を継続して実施する
- ・すべての区において、読書支援活動ボランティアの情報交換や連携・協力が進むよう、交流会や情報交換会を実施する



- ・ステップアップ講座 6回実施(前年度 5回実施)
- ・ボランティア活動支援のための交流会を全区で実施 50回開催(前年度 64回実施)

【参考】登録ボランティア人数



1. 知識を創造する図書館へ

図書館を地域の総合的な知識情報活用基盤として、その利用条件を整備する地域の情報拠点化施策の推進

取組項目	具体的取組	指標・目標値	実施状況	評価
レファレンス(調査相談)・情報サービス・情報発信機能の拡充 課題解決支援(情報検索支援)	<ul style="list-style-type: none"> ・商用データベースの利用促進 ・電子書籍の利用促進 ・ビジネス講座の充実 ・館内利用者用検索機使い方講座の開催 ・予約エントリー機能の拡充(カート方式の導入)など ・新着資料お知らせメールの送信 ・メールレファレンスの利用促進 ・レファレンス事例公開 ・インターネット利用環境の整備 ・横断検索の実現(図書館内外の情報をワンストップで検索) 	<ul style="list-style-type: none"> ・商用データベースアクセス件数12万件 ・電子書籍アクセス件数前年度比増 ・ビジネス講座開催件数増 ・使い方講座の継続開催 ・新規 ・新規 ・メールレファレンス受信件数前年度比増 ・レファレンス事例公開件数の増 ・インターネット利用端末の設置(中央図書館)、自動車文庫への検索用端末の設置・活用 ・新規 	<ul style="list-style-type: none"> ・商用データベースアクセス件数12.4万件(前年度比2.6%増) ・電子書籍アクセス件数20,393件(前年度比3.5%減) ・ビジネス講座9回実施(前年度8回実施) ・ビジネス講座の中で毎回15分程度司書による図書館活用講座を実施 ・本市職員向講座「めざせ!情報の達人!! インターネット検索入門」(9/4)実施 ・カート方式の導入、受取館変更、順番予約機能について、システム更新時に実現 ・26年1月より、新着資料お知らせメール送信開始 ・メールレファレンス受信件数156件(前年度比136%増) ・レファレンス事例公開件数961件(前年度比0.6%増) ・26年1月より、インターネット利用端末6台3F閲覧室に設置(中央図書館) ・自動車文庫への検索用端末の設置 ・26年1月より、多機能端末やインターネットOPACでの「横断検索」や「OMLINサーチ」の提供開始 	○
電子図書館機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書目録情報検索(OPAC)と商用データベース、電子書籍、デジタル・アーカイブとの連携(OPACの資料詳細画面から各データを閲覧可能に) ・表紙画像表示機能追加 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 ・新規 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム更新時に実現 ・表紙画像表示については、館内設置のOPACでのみ提供開始 	○
図書館資料の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書や基本図書など市民の課題解決に役立つ資料を継続して収集 ・地域資料を収集・整理して提供、保存 ・調べ学習や読書活動支援のための図書の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考図書の冊数増 ・地域資料の冊数増 ・学校支援用図書の蔵書増 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な参考図書、基本図書を積極的に購入(25年度1,620冊購入 前年度比 25%減) 地域資料の積極的な収集・提供(192,543冊 前年度比3%増) 調べ学習支援等の児童図書を継続整備(503セット 前年度比12%増) 	○

<p>図書館資料の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料のデジタル化を継続して行い公開 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル資料の公開点数の増 	<ul style="list-style-type: none"> 26年1月より、浄瑠璃の詞章を記した「浄瑠璃本」1440冊のインターネット公開を開始するとともに、既存のデータを整備し、豊富な検索機能を付与しデジタルアーカイブとして提供 	◎
<p>多文化サービスの展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> 市民と協働しての外国とつながりのある子どもたちが参加できる企画事業の実施 日本語に習熟していない人のためのやさしい日本語のOPACの開設 OPACでの多言語検索を容易に(ユニコードの採用) 外国語資料の充実 アメリカ資料の充実、関西アメリカンセンターとの共催による事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の絵本展開催(9月) 新規 新規 アジア言語の蔵書増 アメリカンシェルフの設置、講演会や展示の実施 	<ul style="list-style-type: none"> NPO法人と協働して外国語の絵本展を開催(9/7・8、参加者数1,408人) 26年1月より、日本語に習熟していない人のためのやさしいにほんごモードOPACをインターネットや館内端末で提供開始 26年1月より、ユニコード対応によりOPACでの多言語検索機能を提供 アジア言語図書を1,200冊受入(購入1,017冊、寄贈183冊) 4月にアメリカンシェルフ・プロジェクトの覚書締結(アメリカンシェルフの設置は26年4月～)12月アメリカ留学についての講演会実施 	○
<p>市民への広報の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> 広報媒体の効果的活用 新たな情報発信サービスとしてメールマガジンの開始 SNSを使った情報発信の拡大 自動車文庫の広報拡充 資料収集方針公開 	<ul style="list-style-type: none"> 来館者数の増 新規 ツイッターの更新回数増 自動車文庫貸出冊数の前年度比増 資料収集方針の改定および周知・公開 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館からのお知らせやイベント情報をHPやチラシ等で周知。来館者数は前年度比3.9%減(612万5千人)となったが、HP(トップページ)アクセス数は前年度比24.6%(334万8千件)の増 1月下旬よりメールマガジン配信開始 中央図書館の催し 約200件、地域図書館の催し 約270件等707件発信 26年1月より、巡回日お知らせメールの配信開始 貸出冊数 317,641冊(前年比4.7%減) 資料収集方針を改定し、ホームページで公開 	○

2. 人と、心を育てる図書館へ

図書館が各区の子どもの読書相談支援センターと機能するよう、子どもの読書推進施策の企画、学校、地域、市民との連携事業の企画調整等実施

取組項目	具体的取組	指標・目標値	実施状況	評価
子ども読書活動の推進	・「第2次大阪市子ども読書活動推進計画」の公開・周知	・第2次計画の公開周知	・2次計画を踏まえ、子どもの読書活動推進のための啓発リーフレットを配布(20,000枚)	○
	・「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」の開催	・「大阪市子どもの読書活動推進連絡会」の定例開催	・全24区において、読書支援活動ボランティアグループの代表、区役所や子育て支援施設職員、教員等が参加し、各区の「子どもの読書活動推進連絡会」を開催	
	・学校への団体貸出や調べ学習支援、学校図書館活性化支援	・団体貸出冊数の前年度比増	・一斉読書用の団体貸出セットの提供、小学校での学校送便を活用した団体貸出の実施 学校への団体貸出冊数 82,010冊(前年度比 18.1%増)	◎
	・学校支援総合ポータルサイトの開設	・学校図書館活性化事業各種ボランティア講座の開催	入門講座 20講座、実践講座 18講座、ステップアップ講座 34講座開催	
	・児童生徒に対するとしょかんポイント制度の導入による読書推進	・26年度開設に向け、年度中に準備	・26年度の学校支援ポータルサイト拡充に向け準備 ・26年度の夏休み期間に運用予定の児童ポイント制度のシステムを開発	
	・ボランティア養成講座の開催	・登録ボランティア2400～2500人継続維持	・幼児期図書ボランティア講座12回、ブックスタート入門講座1回を実施。ボランティア数の維持に努めた(読書支援活動ボランティア 2,521人登録)	○
・ボランティア間の情報交換等交流の場の拡大	・ステップアップ講座を2講座以上実施	・保育所・幼稚園等で活動する読書支援活動ボランティアを対象としたステップアップ講座を4回実施、306名が受講		
・ボランティア協働ポータルサイトの開設	・全区でのボランティア交流会および情報交換会の実施	・全区でボランティア交流会および情報交換会を開催	○	
	・26年度開設に向け、年度中に準備	・26年度のボランティア協働ポータルサイトの開設に向け準備		

子ども読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤング層の利用を増やすための各種催しや企画展の開催 ・ティーンズのページの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヤング層向きの催しや企画展等の実施 ・「ティーンズのページ」のアクセス数増 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回「書評漫オグランプリ」(25年11月) 第1回 出場7組・来場90名から、出場13組・来場250名に増 ・「ティーンズのページ」アクセス数6,516件(前年度比11.4%増) 	◎
	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしいにほんごのOPACの開設 ・図書の表紙画像表示機能など読書への興味をうながす検索システムの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 ・新規 	<ul style="list-style-type: none"> ・26年1月より、やさしいにほんごモードOPACをインターネットや館内端末で提供開始。 ・26年1月より表紙画像表示については、館内OPACで提供開始 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期読書環境整備事業の一層の周知と継続実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数の前年度比増 ・ボランティア派遣回数維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の幼稚園・保育所・子育て支援施設など385施設に年1回約4カ月間貸出。計43,128冊(前年度比5.7%増) ・市内の幼稚園・保育所等など250施設にボランティアを派遣し、絵本の読み聞かせ・パネルシアターなどのおはなし会実施。ボランティア派遣回数727回(前年度比10.2%増) 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各区における絵本展開催支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本展開催に向けた支援回数増 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本セットや面展台などを貸出し、絵本展開催を支援。支援件数56件(前年度55件) 	○
	<ul style="list-style-type: none"> ・OneBookOneOSAKA事業の継続・拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・投票数の増 	<ul style="list-style-type: none"> ・「One Book One OSAKA事業実行委員会」(事務局 図書館)が大阪府との連携、企業からの協賛も得て投票を実施 投票数9,004票(前回比36.6%減) 	

3. 効率的な運営体制の確立

効率的で効果的な図書館の管理運営の推進

取組項目	具体的取組	指標・目標値	実施状況	評価
人材育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・司書の専門性向上と人材育成の充実に必要な研修等の実施 ・外部研修への司書の派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者数増 ・派遣回数維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員を対象とした研修:10回実施(前年度9回) ・担当者別研修:26回実施(前年度25回) ・府立図書館、文部科学省、国立国会図書館等主催の外部研修に司書を派遣 延69名(前年度延73名) 	○
自主財源の確保及び経費の節減	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな財源確保や運営費の節減を図るための図書館施設や広報物を利用したの広告事業への取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主財源の維持、広告事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・バナー広告による収入の増加(1,938千円→1,954千円)(前年比0.8%増) 	○
図書館事業に関わる成果(アウトカム)の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見箱の設置と、主な意見に対する回答 ・利用者アンケートの実施 ・講習会・講座受講者アンケートの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ内に「ご意見・ご要望」のページ設定するとともに、館内にご意見ご要望箱を設置 ・各種アンケート結果の実施、分析結果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ、ご意見箱からのご意見ご要望 回答数 35件 ・利用者満足度アンケートの実施 中央 25年5月、26年3月 地域館 26年3月 	○
図書館情報ネットワークシステム移行に伴う、業務内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌市販データの導入による受入れ業務の迅速化と目次情報の豊富化 ・図書館カードの運用改善検討 ・利用サービス内容の改善検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・新規 ・年内に運用をマニュアル化、市民周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・雑誌市販データの活用システムを開発 ・本年1月より、全館で図書館カードを1枚とする運用を開始 ・本年1月より、貸出点数について、8点から15点に変更 	○
市立中央図書館における業務委託内容の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・経費増をできるだけ伴わない創意工夫による蔵書点検休館期間の短縮に向けた検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度実施に向け、年度中に調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度から蔵書点検休館期間を3日間短縮予定 ・25年4月より、図書・雑誌・新聞の受入業務及び生涯学習事業に関わる一部業務等について民間委託業務に追加 	○
図書館情報ネットワークシステム移行に伴う、経常経費の縮減	<ul style="list-style-type: none"> ・システム更新によるシステム事業ランニングコスト低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・15%縮減(現行システム初期導入時比) 	<ul style="list-style-type: none"> ・システム事業のランニングコスト減(旧システム初期導入時比24%縮減) 	◎

(評価:◎→目標以上 ○→目標どおり △→目標以下 ×→成果なし)